

中央区内景気動向調査

令和4年8月調査結果

令和4年9月27日

中央区

総 括

令和4年8月の動き

中央区内における8月の現状判断D Iは合計で46.7と、前回調査から12.2ポイント低下している。景気の先行き判断D Iは合計で49.4と、前回調査から3.9ポイント低下している。

図表 景気の現状判断D I、先行き判断D I（合計）

(D I)	令和4年			前回調査 からの変化
	4月	6月	8月	
合計				
現状判断D I	52.8	58.9	46.7	(-12.2)
先行き判断D I	54.0	53.3	49.4	(-3.9)

目 次

調査の概要	1 頁
調査結果	
1 景気の現状に対する判断	2 頁
2 景気の先行きに対する判断	3 頁
3 現在の景気水準に対する判断（参考）	4 頁
4 判断理由	
(1) 景気の現状に対する判断理由着目点	5 頁
(2) 景気の現状に対する判断理由	6 頁
(3) 景気の先行きに対する判断理由	8 頁
（別紙）調査客体の分野・業種別人数構成	10 頁
中央区内景気動向調査 調査票	11 頁
(1) 家計動向関連	
(2) 企業動向関連	

調査の概要

1 調査の目的

中央区内において景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々の協力を得て、地域の景気動向を迅速かつ的確に把握し、効果的な施策を実施するための基礎資料とすることを目的とする。

2 調査の客体

中央区内の家計動向関連、企業動向関連で、代表的な経済活動の動向を敏感に反映する現象を観察できる業種において、適当な職種の中から選定した50人を調査客体とする。調査客体の分野・業種別人数構成については、別紙を参照のこと。

3 調査事項

- (1) 景気の現状に対する判断（方向性）
- (2) (1)の理由
- (3) (2)の追加説明及び具体的状況の説明
- (4) 景気の先行きに対する判断（方向性）
- (5) (4)の理由
- (参考) 景気の現状に対する判断（水準）

4 調査月及び調査期間等

調査月は年6回の隔月に当月時点で実施、調査期間は調査月の中旬約1週間で、令和4年8月調査の調査票発送は8月5日（金）、回答期限は8月17日（水）である。

5 調査機関

本調査は中央区が主管し、委託先である株式会社日本経済研究所を取りまとめ調査機関として実施したものである。

6 有効回答率

調査客体50名に対し、有効回答客体は45名、有効回答率は90.0%であった。

7 DIの算出方法

景気の現状、または、景気の先行きに対する5段階の判断に、それぞれ以下の点数を与え、これらを各回答区分の構成比（%）に乗じて、DIを算出している。

評価	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
	良くなる (良い)	やや良くなる (やや良い)	変わらない (どちらとも いえない)	やや悪くなる (やや悪い)	悪くなる (悪い)
点数	+ 1	+ 0 . 7 5	+ 0 . 5	+ 0 . 2 5	0

1 景気の現状に対する判断

3か月前と比較しての中央区内における現状判断DIは合計で46.7と、前回調査から12.2ポイント低下している。分野別にみると、家計動向関連DIは45.0と、前回調査から23.8ポイント低下し、企業動向関連DIは48.0と、前回調査から3.0ポイント低下している。構成比では、「やや良くなっている」と回答した人の割合が24.4ポイント減少し、「変わらない」と回答した人の割合が15.5ポイント増加した。

図表1-1 各分野における景気の現状判断DIの推移表

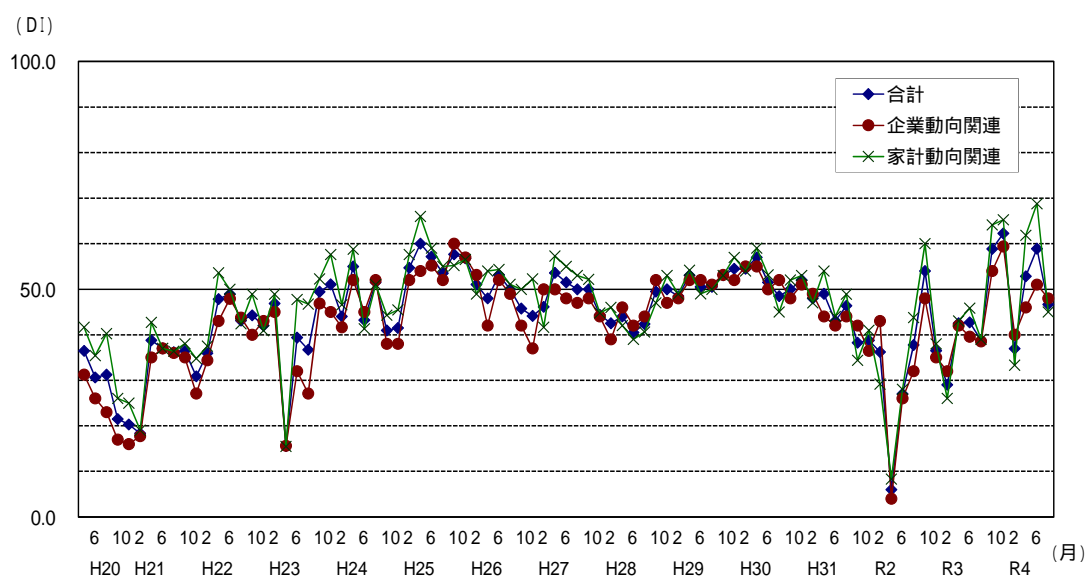
(DI)	令和4年			
	4月	6月	8月	(変化幅)
合計	52.8	58.9	46.7	(-12.2)
家計動向関連	61.8	68.8	45.0	(-23.8)
小売関連	59.1	66.7	41.7	(-25.0)
飲食関連	-	-	-	(-)
サービス関連	62.5	68.8	56.3	(-12.5)
住宅関連	-	-	-	(-)
企業動向関連	46.0	51.0	48.0	(-3.0)
製造業	35.0	35.0	45.0	(10.0)
非製造業	48.8	55.0	48.8	(-6.2)

(備考)家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

図表1-2 構成比

年	月	良く	やや良く	変わらない	やや悪く	悪く
		なっている	なっている		なっている	なっている
令和4年	4	4.5%	31.8%	34.1%	29.5%	0.0%
	6	8.9%	42.2%	26.7%	20.0%	2.2%
	8	4.4%	17.8%	42.2%	31.1%	4.4%
(変化幅)		(-4.5)	(-24.4)	(15.5)	(11.1)	(2.2)

図表1-3 各分野における景気の現状判断DIの推移



2 景気の先行きに対する判断

2～3か月先の中央区内における景気の先行き判断D Iは合計で49.4と、前回調査から3.9ポイント低下している。分野別にみると、家計動向関連D Iは52.5と、前回調査から11.3ポイント低下し、企業動向関連D Iは47.0と、前回調査から2.0ポイント上昇している。構成比では、「良くなる」と回答した人の割合が8.9ポイント減少し、「やや良くなる」と回答した人の割合が4.5ポイント増加した。

図表2 - 1 各分野における景気の先行き判断D Iの推移表

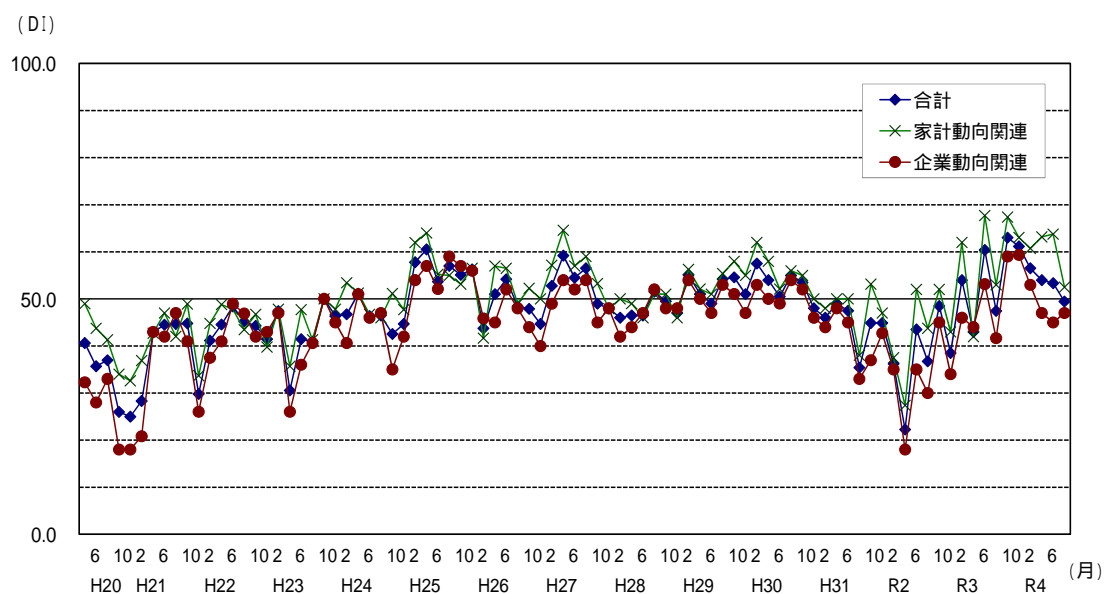
(D I)	令和4年			
	4月	6月	8月	(変化幅)
合計	54.0	53.3	49.4	(-3.9)
家計動向関連	63.2	63.8	52.5	(-11.3)
小売関連	56.8	54.2	43.8	(-10.4)
飲食関連	-	-	-	(-)
サービス関連	75.0	81.3	62.5	(-18.8)
住宅関連	-	-	-	(-)
企業動向関連	47.0	45.0	47.0	(2.0)
製造業	25.0	50.0	50.0	(0.0)
非製造業	52.5	43.8	46.3	(2.5)

(備考)家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

図表2 - 2 構成比

年	月	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる
令和4年	4	11.4%	25.0%	31.8%	31.8%	0.0%
	6	11.1%	24.4%	33.3%	28.9%	2.2%
	8	2.2%	28.9%	35.6%	31.1%	2.2%
(変化幅)		(-8.9)	(4.5)	(2.3)	(2.2)	(0.0)

図表2 - 3 各分野における景気の先行き判断D Iの推移



3 現在の景気水準に対する判断（参考）

現在の景気的水準自体に対する判断は、以下のとおりであった（注）。

図表3 - 1 各分野における景気の現状水準判断D Iの推移

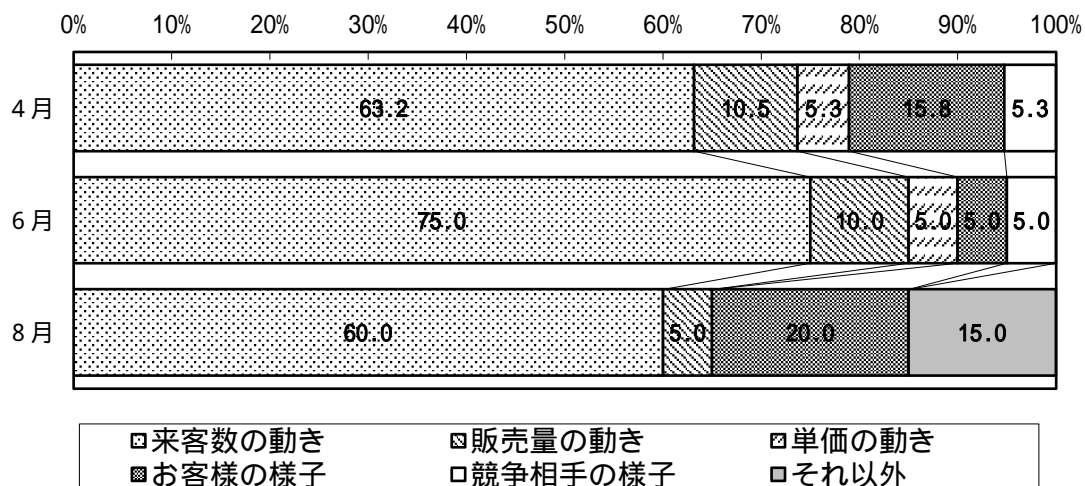
(D I)	令和4年		
	4月	6月	8月
合計	48.9	58.3	44.4
家計動向関連	59.2	65.0	41.3
小売関連	65.9	64.6	41.7
飲食関連	-	-	-
サービス関連	50.0	62.5	43.8
住宅関連	-	-	-
企業動向関連	41.0	53.0	47.0
製造業	35.0	45.0	40.0
非製造業	42.5	55.0	48.8

(備考)家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

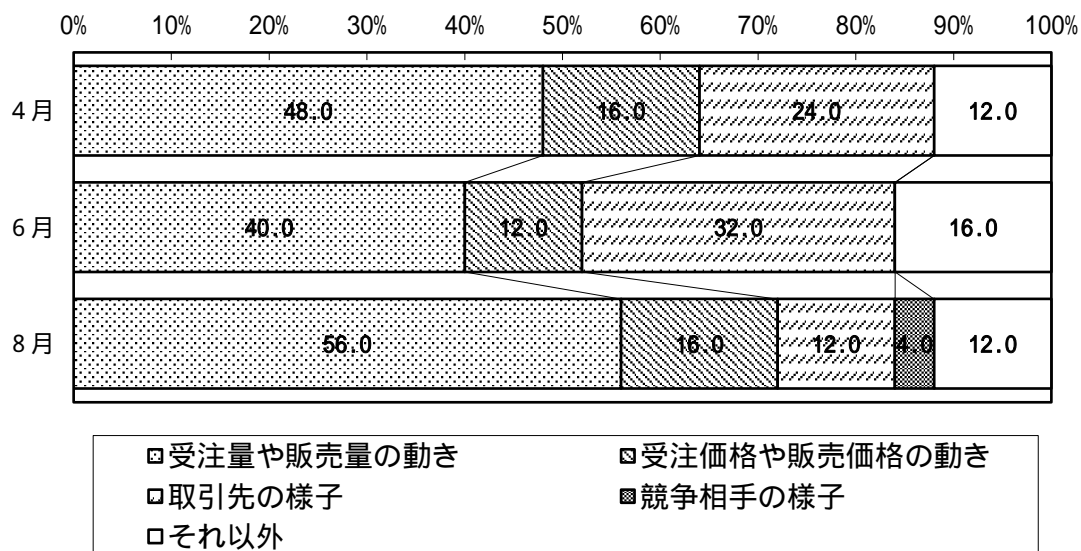
(注)景気の現状をとらえるには、景気の方加性に加えて、景気的水準自体について把握することも必要と考えられることから、参考までに掲載するものである。

4 (1) 景気の現状に対する判断理由着目点

家計動向関連



企業動向関連



注) 本グラフは景気の現状に対する判断理由着目点の構成比を示している。
割合が0%の場合、数値は表記していない。

4 (2) 景気の現状に対する判断理由

(- : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良くなっている			
	やや良くなっている	都市型ホテル（経営者）	来客数の動き	・来客数は少しずつ増加しているが、料金的にはいまだに新型コロナウイルス発生前の半額に近い。
		旅行代理店（店長）	それ以外	・新型コロナウイルスを理由に旅行をキャンセルする動きは一定程度あるが、行動制限がないため、以前と比べると割合は減っている。
	変わらない	百貨店（総務担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染再拡大のなか、安心安全を心掛けつつも人流は減っておらず、消費マインドは引き続き堅調である。
		百貨店（広報担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染再拡大により、来客数にブレーキが掛かっており、中間層の消費が伸び悩んでいる一方で、富裕層の消費マインドは高いままで推移している。
		高級レストラン（経営者）	それ以外	・新型コロナウイルス感染者数が増え、社内でも欠勤者が出て、休業状態となっている。約10日間の休業により、売上が減少し、再興までは時間が掛かる。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響で会社から飲食を控えるようにといわれているので、サラリーマン、OLは来てくれないが、若者はそれなりに来てくれているので、変わらない。
		一般レストラン（経営者）	お客様の様子	・当店においては季節要因があり、夏は例年売上がダウンするが、新型コロナウイルスの感染状況も含め、なかなか景況がつかみにくい。
	やや悪くなっている	一般小売店[事務用品]（営業担当）	来客数の動き	・夏休み、新型コロナウイルス感染第7波の影響が大きいのか、来客数が20%以上減少している。
		一般小売店[文具]（販売担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスオミクロン株BA.5の感染者数が増加し、来街者数が7月中旬から減っている。
		百貨店（総務担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染第7波の渦中にあっても来客数はさほど落ち込んでいない。しかし、相次ぐ値上げの影響から販売数量、販売額が落ちているほか、営業コストの増加が続いている。
		衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・3か月前は来客数が前年比140%と回復の兆しが見えたが、東京都の新型コロナウイルス感染者数が3万人を超えてからは、前年の緊急事態宣言時の来客数とほぼ同じになっている。
		高級レストラン（副店長）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染者数が増えているため、7月前半に比べて来客数がかなり減っている。
	悪くなっている	一般小売店[食品]（店長）	それ以外	・せっかく安定してきたところに、中心スタッフが新型コロナウイルスに感染し、2週間以上休業せざるを得なくなり、死活問題である。
	企業 動向 関連	良くなっている	不動産業（企画担当）	競争相手の様子
やや良くなっている		印刷業・製本業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・コロナ禍でも少しずつ経済を回していこうと皆が努力している。
		通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・前年度は余りなかったが、こちらからの提案なしに、指名買いで申込みしてもらえるケースが増えてきている。
変わらない		出版業（営業担当）	それ以外	・行動制限のない久しぶりの夏休みとなり、各地で入出が増え、経済は回ってきているが、大幅な円安や新型コロナウイルスの感染者数高止まりの状況など不安材料ばかりで、景気が良化するとは思えない。
		印刷業・製本業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量は横ばいだが、原材料費の値上げが続いているため、利益を圧縮している。
		建設業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・建設資材の価格高騰で、先が見えない。
	通信業（営業担当）	取引先の様子	・元気のある企業とない企業とに2極化している。コロナ禍の後、テレワークを推進し、新型コロナウイルス発生前と仕事のやり方自体を変えて、定着させようとはしているものの、本当に生産性が上がっているのか分からない。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		卸売業〔機械器具〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量、販売量共に以前とほとんど変わらず、低水準のまま横ばいである。
		卸売業〔機械器具〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・販売先の購入数量が抑え気味な感じがする。
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・3か月前の予算に対する売上達成率が、今月も同じくらいの比率となっている。
	やや悪くなっている	出版業（経営者）	それ以外	・新型コロナウイルスまん延の持続と、床屋代なども含む物価の値上がり、消費行動を委縮させている。
		建設業（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・受注競争が厳しく、低価格での受注が多い。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・新型コロナウイルス感染者数が増加するにつれ、飲食店、宿泊施設の来客数が減少している。
	悪くなっている	-	-	-

4 (3) 景気の先行きに対する判断理由

(- : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	一般小売店 [文具] (販売担当)	・新型コロナウイルス感染者数が減少し、インバウンド客が増加すると予想している。しかし、新たに感染が拡大した場合は悪くなる可能性もある。
		一般小売店 [食品] (店長)	・今月は新型コロナウイルスの影響によって長期休業を余儀なくされた。客の回復と売上向上に努めるしかない。
		スーパー (店長)	・現在、新型コロナウイルスの感染者数が増え続けている。3か月後は冬になっているので、更に感染者数の増加が加速する。その場合、再び巣籠り需要が発生すると考えているが、以前のように全ての人が自宅待機することはないとみている。
		コンビニ (店長)	・業種によりばらつきはあると思うが、当店では外出機会の増加により、来客数、売上共に上向いてきている。
		高級レストラン (経営者)	・新型コロナウイルスの影響次第である。飲食店は大打撃を受けている。
		高級レストラン (副店長)	・10月頃になり、新型コロナウイルスの感染者数が落ち着いてくれば宴会予約も増えてくる。今以上に悪くなることはない。
		一般レストラン (経営者)	・外国人客が少しずつ増えているようである。このままで推移すれば良くなるのではないかと。
		都市型ホテル (経営者)	・コロナ禍においても国による行動制限がないため、人流が盛んになってくる。
		旅行代理店 (店長)	・海外出張や学会など、ビジネス需要については不透明な部分があるものの、観光需要は引き続きある。
	変わらない	百貨店 (総務担当)	・海外ラグジュアリーブランドや、時計、宝飾品等の高価格帯カテゴリーが好調である。海外へ出国できない富裕層を中心に、年末までこの流れが継続する見通しである。
		百貨店 (広報担当)	・今よりは新型コロナウイルスの感染状況が落ち着き、年末のオケージョンが盛り上がる。しかし、物価高騰等の社会環境が改善されない限り、本質的な回復は期待できないため、横ばいと予想している。
		一般レストラン (経営者)	・新型コロナウイルスの感染状況次第でどうなるか分からない。
		都市型ホテル (営業担当)	・新型コロナウイルスの感染状況次第である。夜のレストラン需要がまだ戻らない。
	やや悪くなる	競馬場 (職員)	・来場者数に変化がみられない。
		一般小売店 [事務用品] (営業担当)	・新型コロナウイルスの影響が大きいですが、暑さもあり、やはり出勤者が減っているため、しばらくは期待できない。
		百貨店 (総務経理担当)	・インフレが懸念される。
		百貨店 (総務担当)	・光熱費をはじめ、営業コストの増加は当面続く見込みである。売上高で吸収できる値上げ幅ではないとみている。
悪くなる	スーパー (店長)	・現在は新型コロナウイルスの感染第7波の最中であるが、それも落ち着きを見せ、再び外出機会が増えると推測している。	
	一般小売店 [和菓子] (経営者)	・お盆で人の流れが多くなり、新型コロナウイルスの感染者数が増加すると、会社間でのビジネス利用が減り、需要が少なくなる。	
企業 動向 関連	良くなる	不動産業 (企画担当)	・新型コロナウイルス収束後を見据えたオフィス戦略を検討する企業が増えている。マンション販売は高価格帯も順調である。
	やや良くなる	新聞業 (営業担当)	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いてくることが予想され、それに伴い旅行など様々な消費が喚起される。
		印刷業・製本業 (営業担当)	・政府が経済重視の政策を採り続ければ、ある程度景気は戻ってくる。
		卸売業 [飲食料品 (鮮魚)] (経営者)	・世間が新型コロナウイルスに慣れてきて、経済も回るようになってきている。
		経営コンサルタント	・8月上旬くらいに新型コロナウイルスの感染第7波のピークを迎え、少しずつではあるが減少傾向にある。また、暑さも一段落するので、人の流れが増加する。
変わらない	出版業 (営業担当)	・現政権は何もしないことで経済を回そうとしているが、円安と新型コロナウイルスの感染状況が今後どうなるか不透明である。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		建設業（営業担当）	・発注に対して参加業者が増えており、価格競争になっている。
		建設業（経営者）	・新型コロナウイルスの感染第7波により、持ち直したように見えた景気が再び鈍化していく。
		輸送業（従業員）	・受注量は変わらない。
		通信業（営業担当）	・新型コロナウイルスだけではなく、異常気象による水害などもあり、モチベーションが上がらない。トンネルの先が見えず、不安である。
		金融業〔証券〕（営業担当）	・新型コロナウイルスの感染再拡大による医療ひっ迫が懸念されるものの、かたくなに行動制限が行われない状況や、足元の「リベンジ旅行」等の動きを見る限り、景気動向への圧迫という点では過去とは大分異なっている。一方で、米国の利上げによる円安バイアスや消費財価格の高騰については、明らかに景気圧迫要因として顕在化しつつあることから、当面はこの綱引きが継続するものとみている。
		卸売業〔繊維・衣服等〕（営業担当）	・新型コロナウイルスの感染再拡大があるか否かで変わってくる。
		卸売業〔機械器具〕（経営者）	・特に良くなりそうな情報がない。
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（営業担当）	・コロナ禍における経済も一定のレベルを保ちつつ動き始めているため、業種としては、余り変化は起こらないと予測している。
	その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（管理担当）	・工事部材の一部高騰や品薄状態は継続しているが、それが原因で工事が中止になるような状況はみられない。半年間の工事計画には変更がない。	
	やや悪くなる	出版業（経営者）	・値上がりの秋と、終わりなき新型コロナウイルスの影響により、景気は下降傾向と読み取れる。
		印刷業・製本業（経営者）	・利益が減少し、事業収益が縮小すれば、冬季ボーナス等にも影響する可能性があるため、景気は悪くなるのではないかと。
		建設業（営業担当）	・受注が伸びていない。
		建設業（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況や建設資材の高騰により、先行きは不透明である。また、公共案件で採算度外視の価格競争が多い。
		通信業（営業担当）	・半導体不足の影響で、需要があってもモノが売れないケースが増えてきている。
金融業〔証券〕（営業担当）		・世界各国で同時に金利が上昇しており、将来の景気を冷やすことがほぼ確実視され始めている。	
	卸売業〔機械器具〕（営業担当）	・2～3か月以内に大きな購入計画はなく、通常ベースの購入になりそうである。	
	卸売業〔機械器具〕（支社長）	・受注額は見込みを達成する期待が持てるが、コストが急速に増加しており、収益が心配である。自治体と協議を始めているが、物価スライド条項で吸収できるのは一部にとどまり、見通しは厳しい。	
悪くなる	-	-	

(別紙) 調査客体の分野・業種別人数構成

分野	業種	調査客体数 (人)
合計		50
家計動向関連		25
	小売関連	14
	商店街・一般小売店	5
	商店街代表者	0
	一般小売店経営者・店員	5
	百貨店	4
	百貨店売場主任・担当者	4
	スーパー	2
	スーパー店長・店員	2
	コンビニエンスストア	1
	コンビニエリア担当・店長	1
	衣料品専門店	2
	衣料品専門店経営者・店員	2
	家電量販店	0
	家電量販店経営者・店員	0
	乗用車・自動車備品販売店	0
	乗用車・自動車備品販売店経営者・店員	0
	その他小売店	0
	住関連専門店経営者・店員	0
	その他専門店経営者・店員	0
	その他小売の動向を把握できる者	0
	飲食関連	4
	高級レストラン経営者・スタッフ	2
	一般レストラン経営者・スタッフ	2
	スナック経営者	0
	その他飲食の動向を把握できる者	0
	サービス関連	7
	旅行・交通関連	3
	観光型ホテル・旅館経営者・スタッフ	0
	都市型ホテル・旅館経営者・スタッフ	2
	旅行代理店経営者・従業員	1
	タクシー運転手	0
	通信会社	2
	通信会社社員	2
	レジャー施設関連	2
	観光名所・遊園地・テーマパーク職員	0
	ゴルフ場経営者・従業員	0
	パチンコ店経営者・従業員	0
	競輪・競馬・競艇場職員	1
	その他レジャー施設職員	1
	その他サービス	0
	美容室経営者・従業員	0
	その他サービスの動向を把握できる者	0
	住宅関連	0
	設計事務所所長・職員	0
	住宅販売会社経営者・従業員	0
	その他住宅投資の動向を把握できる者	0
	その他家計の動向を把握できる者	0
企業動向関連		25
	農林水産業従業者	0
	鉱業経営者・従業員	0
	製造業経営者・従業員	5
	食品製造業	0
	繊維工業	0
	家具及び木材木製品製造業	0
	パルプ・紙・紙加工品製造業	0
	出版・印刷・同関連産業	5
	新聞業	1
	出版業	2
	印刷業・製本業	2
	その他出版・印刷・同関連産業	0
	化学工業	0
	石油製品・石炭製品製造業	0
	プラスチック製品製造業	0
	窯業・土石製品製造業	0
	鉄鋼業	0
	非鉄金属製造業	0
	金属製品製造業	0
	一般機械器具製造業	0
	電気機械器具製造業(精密機械を含む)	0
	輸送用機械器具製造業	0
	その他製造業	0
	非製造業経営者・従業員	20
	建設業	4
	輸送業	1
	通信業	2
	金融業	2
	不動産業	1
	卸売業	6
	繊維・衣服等	2
	飲食品	1
	建築材料・鉱物・金属材料等	0
	機械器具	3
	その他卸売業	0
	サービス業	4
	広告代理店・新聞販売店[広告]	0
	司法書士・経営コンサルタント・会計事務所職員等	1
	コピーサービス業	0
	その他サービス業	3
	その他非製造業	0
	その他企業の動向を把握できる者	0